

西日本新聞me > 九州ニュース > 福岡 > 国は「不要」というけれど…卒業式マスク、対応ばらばら 個人の判断、原則着用も



社会 福岡 教育

国は「不要」というけれど…卒業式マスク、対応ばらばら 個人の判断、原則着用も

2023/3/1 6:00 (2023/3/2 10:17 更新)

#福岡市 #社会面 #新型コロナウイルス



吉田 真紀、古川 大二、野村 有希

+ フォロー



+ 拡大

新型コロナの感染拡大以降、卒業式ではマスク姿が定着していた＝2020年3月、北九州市





3月から卒業式シーズンが本格化する。国は新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け移行（2類相当から5類）を見据えて「児童生徒や教職員はマスク不要」との通知を出したが、九州の各教育委員会の対応にばらつきが見られる。一部には通知や教委の方針とも異なる厳格なルール「全校マスク着用」で臨む学校も。関係者からは「学校や地域で対応が異なるのは不公平」との不満も聞かれる。

▶簡単ではないマスク“卒業”

九州では大半の公立高校の卒業式は3月1日に行われ、小中学校は中下旬が多い。福岡県、佐賀県教委などは文部科学省の通知に準じる方針を示す。

そうした中、長崎県教委は在校生にはマスク着用を求めている。担当者は「今回の通知は卒業生への特別な配慮と受け止めた」と話す。これに対し、文科省は「通知の『児童生徒』には在校生も含んでいる」との見解を示す。国と県の意味疎通にもコロナ下の混乱ぶりがうかがえる。

熊本市教委は児童生徒、保護者とも着用は「個人の判断」とした。担当者はその理由を「主体的に判断できる人を育むという理念に基づき決定した」と説明する。一理ありそうだ。大分県、大分市教委は感染対策を理由に、卒業証書を授与する側の教職員には着用を求めるという。

教委の方針や通知とも違う独自の対応を取る学校の一つが、福岡市のある県立高校。生徒や教職員のマスク着用を原則とする。担当者は「会場の換気が悪く、大学入試を控える生徒もいる。ただ写真撮影をしたい保護者の気持ちも考え、入退場時はマスクを外せるようにした」と言う。

同市のある私立高校はさらに厳しい。生徒のマスク着用に加え、保護者は別会場からオンラインでの参加に限る。担当者は「まだコロナは5類ではない。国はこれまでマスク着用を徹底するよう言っていたのに矛盾している」と、文科省の通知に疑問を呈した。

卒業する中高生は3年間、マスク着用が当たり前の日常を過ごしてきた。式で着用が必須という同市の別の私立高校を長女が卒業する50代女性は「表情が見られないのは親として寂しい。公

(古川大二、野村有希、吉田真紀)

識者も見解割れる

識者間でも見解は割れる。災害リスク学が専門の広瀬弘忠・東京女子大名誉教授は、感染拡大の初期段階でマスク着用を奨励した政府が、収束していない時期に着用しないよう勧めるのは「正反対のことを言うようで混乱を招く。着脱は個人の判断でよかったのではないか」と批判した。

一方、佐賀大医学部の青木洋介教授（感染症学）は、感染しても重症化の恐れが少ない「中高生の卒業式」という特定の場面では、そもそもマスクを外すことのリスクは「小さい」との立場。いずれマスクのない生活に戻るには「ケース・バイ・ケースで小さなリスクを許容することも必要。今回は思い出づくりを優先した方がよかったと思う」と話した。

(野村有希)

文部科学省の通知 「卒業式のマスクに関する基本的な考え方」として、2月10日付で都道府県教育委員会などに通知した。児童生徒や教職員は入退場、式辞、卒業証書授与など式全体を通じてマスクを外すのが基本。国歌・校歌の斉唱時はマスク着用などの対策を講じるとし、不安を感じる児童生徒には外すことを強要しない。来賓や保護者には着用を求め、人数制限は不要とした。